

リサイクル推進  
環境美化推進について



ど真ん中の会  
永井 真人 議員

**問** 本年4月より古紙回収の方法が変わった。回収率は向上したか。その所感は。

**答** 6月末比較で昨年より率にして145%であった。町内会・子ども会等の協力で古紙の回収が進んでいる。

**問** 古紙回収はしぼるのが面倒くさいとの声があるが、しぼらなくてもよいというアピールができないか。

**答** 町内会での収集はしぼらなくてよい。なるべく簡単な方法でのPRをしていきたい。

**問** 専用の袋を作成し配布・販売をして啓発できないか。

**答** 意識をたかめる意味があるが、一度研究する。

**問** 回収方法・収集日は町内会によって異なる。各町内に越境の協力を依頼しては。

**答** 基本的にはどの町内で出してもよい。各町内の理解が必要である。

**問** 駅周辺のムクドリが今年は大幅に減少した。認識は。

**答** 周辺の電線を細工するよう電柱の占有者に依頼した。改善されたと実感している。

**問** 10月1日より環境美化推進条例が施行される。罰則規定があるので、J.Tの申し入れを受け、駅前広場に喫煙所を設けて分煙を推進しては。

**答** 世の中の健康に対する思いから、現状では難しい。



ムクドリ対策

魅力あるまちづくりを  
目指して



市政会  
田中 健 議員

**問** 6月県議会において、都市計画法の開発許可制度が緩和された。市の方針と対応は。

**答** 規制緩和は、市街化・調整区域の線引きに関わること開発に伴い公共投資が必要になれば、市街化区域の整備速度にも影響が生じるため、慎重な対応が必要と考える。

**問** 緩和要件に当たる区域は。

**答** 「八橋町山田谷地区」および「西中町の農振農用地を除く区域」があるが、下水道整備などの条件に不足がある。

**問** 今回の条例は「開発を促して、地域活性化や景気対策につなげる」もの。地権者、利用者の要望をつかみ、保全、利用の両観点から環境整備を。

**答** 住宅建設による経済効果、税収アップは期待できるが、都市計画の観点から市街化区域の整備を優先したい。

**問** 工業系立地の規制緩和は。

**答** 都市計画マスタープランで工業系の土地利用を位置付けている箇所は「西町本田地区」と「上重原北部地区」。どちらも要件で不足する箇所があるが、今後研究は必要。

**問** 自主財源確保につながる広告掲載事業の当市の状況は。

**答** 平成22年度の実績は、広報ちりゅうが122万円、ウェブサイトに109万円の歳入。今後は掲載応募増加の対策を図る。



上重原北部地区

平成22年度決算から



ど真ん中の会  
久田 義章 議員

**問** 知立市平成22年度決算は、財政指標から見ても市民要望に

応えていくには非常に厳しい状況で、大型事業など財政問題が懸念される。次の見解は。

① 市税収入について

② 財政力指数について

③ 経常収支比率について

④ 公債費負担比率について

**答** ①個人市民税は落ち込んでいる。法人市民税は、平成21年度は落ち込んでいたが、平成22年度は持ち直してきた。

② 現下の経済状況等を勘案すると、今後2、3年は市税の増収を見込むのは困難であることから、厳しい財政状況が続くのではないかと推察する。

③ 扶助費が大きく増加しており比率が上がっている。このままの状況が続くことは、財政が硬直化し、建設事業を始めとして投資的事業の執行に大きな影響が出る。今後はこれ以上悪化しないよう各種事業のあり方を注視する必要があると考える。

④ 比率の増加は、主に一般財源総額の減少が招いたもので、今後は連続立体交差事業の進捗により比率は上昇していくと思われる。計画的な借入をする中で健全性を保っていきたいと考えている。